

円高の進行(1ドル=95円台)に対する会頭コメント

京都の輸出関連企業にとって、円高・ドル安は大きな懸念材料となっているが、今回のような急激な円高は各企業とも想定外だろう。

円高といっても、原材料価格は引き続き高騰しており、恩恵を受ける輸入関連企業はわずかであり、中小企業は依然景況を悪化させている。

FRBは緊急対策を打つようだが、政府と日銀には、米国のサブプライムローンに端を発した市場の動揺を抑え、為替安定のために、主要国の政府・中央銀行と協調し、早急な対応を求めたい。

会員企業には、自社のプラス・マイナス効果を正しく読み、中長期的視野にたった上で、適切に対応するよう望みたい。

平成20年3月17日

京都商工会議所
会頭 立石 義雄